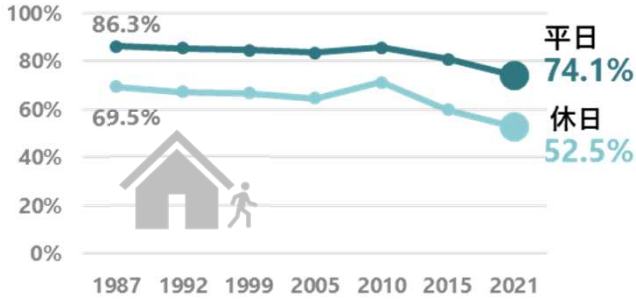




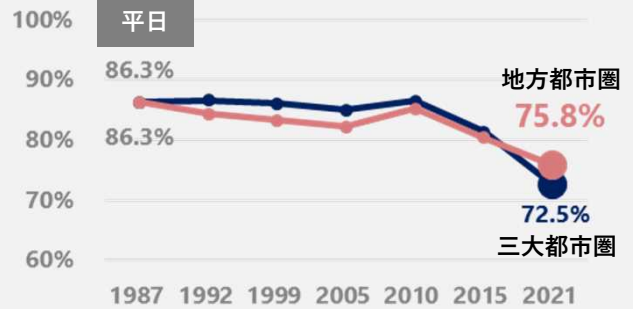
家からのおでかけや1日の移動回数の変化

1 外出率(1日1回は家から出かける人の割合)

・過去最低を更新

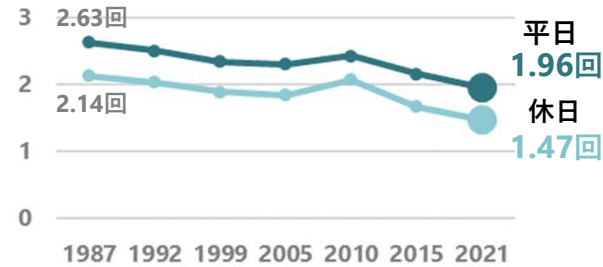


地方都市圏の外出率が三大都市圏を上回る

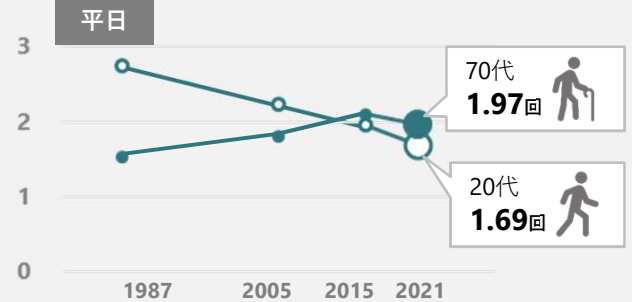


2 移動回数(1人が1日に移動する平均回数)

・1日の移動回数は減少が続く



70代と20代の移動回数の差は拡大

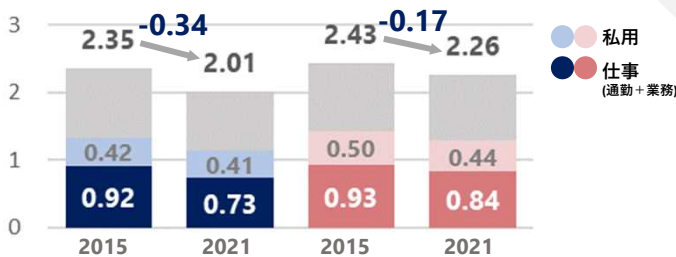


3 就業者の目的別移動回数(平日)

- ・三大都市圏では仕事の移動が大きく減少
- ・地方都市圏では仕事と私用の移動が減少

三大都市圏

地方都市圏



在宅勤務者※の割合(平日)は三大都市圏が地方都市圏を大きく上回る

※その日在宅勤務を行った人(通勤した人は含まない)



4 通勤者・在宅勤務者の移動回数(平日)

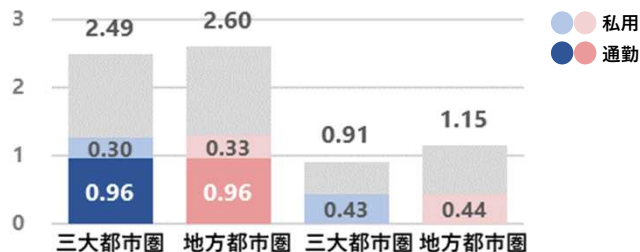
- ・在宅勤務者は通勤がない分、移動回数が少ない
- ・私用の移動は在宅勤務者がやや多い

通勤者

在宅勤務者

※在宅で勤務した人は含まない

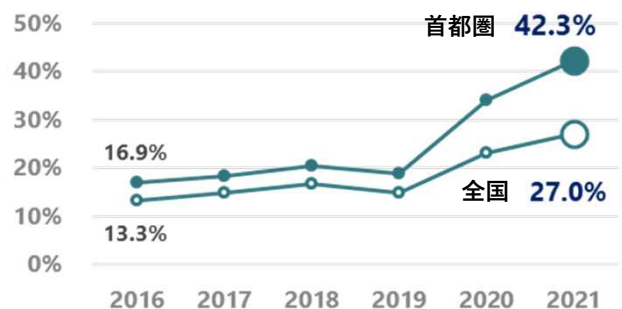
※通勤した人は含まない



参考

テレワーク率※

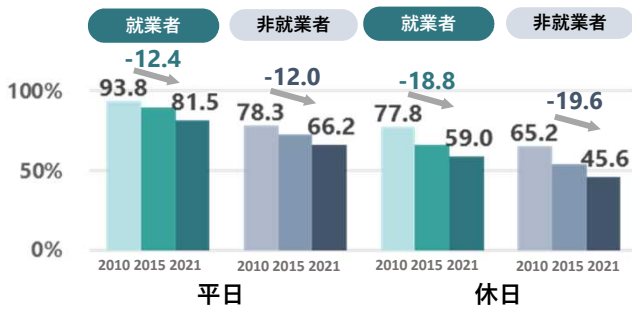
※雇用型就業者のうち、テレワークをしたことがある人



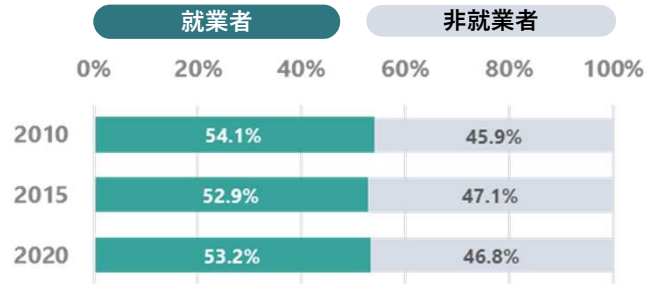
出典) 国土交通省「テレワーク人口実態調査」(各年)より作成
※首都圏: 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

5 就業者と非就業者の外出率

- ・就業、非就業問わず大きく減少



参考 就業者割合の変化

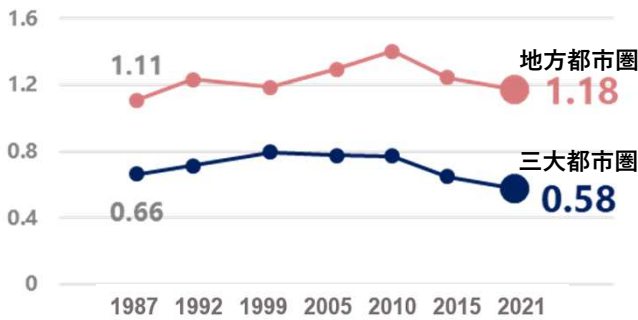


出典) 総務省「国勢調査」(各年)より作成

都市特性による交通手段の違い

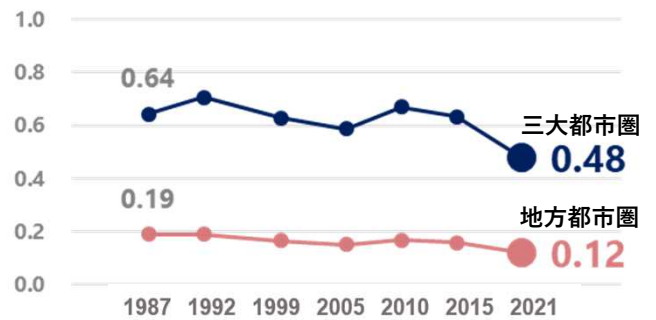
6 自動車での移動回数(平日)

- ・三大都市圏、地方都市圏ともに減少



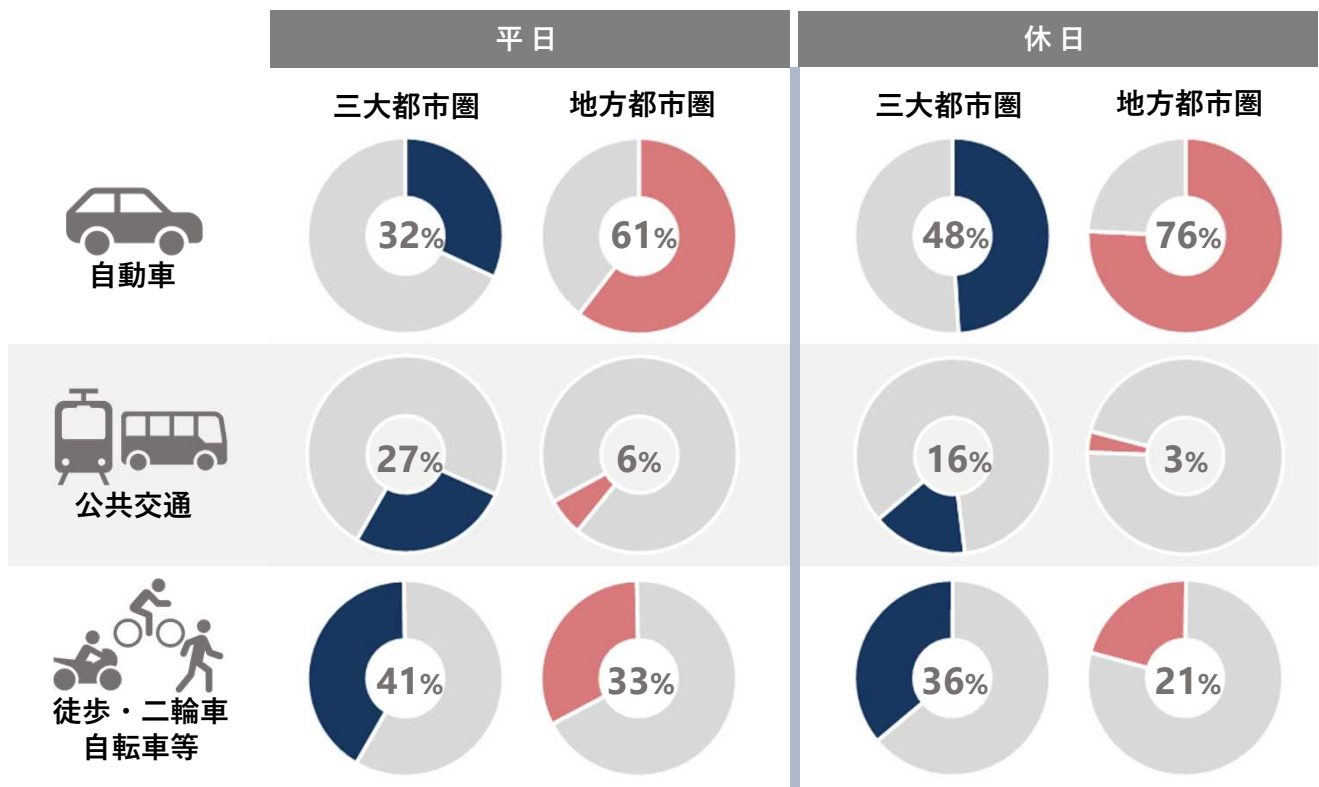
7 公共交通での移動回数(平日)

- ・三大都市圏では大幅に減少
- ・地方都市圏では微減



8 移動するときに使う交通手段の割合

- ・平日、休日ともに三大都市圏よりも地方都市圏において自動車の利用割合が大きい
- ・三大都市圏、地方都市圏ともに、平日よりも休日の方が、自動車の利用割合が大きい



別紙「全国の都市における人の動きとその変化」の解説

1. 外出率と移動回数について

①は、外出率を示している。平日は74.1%、休日は52.5%となり、過去最低の値を更新した2015年調査の結果をさらに下回った。

三大都市圏と地方都市圏を比較すると、平日における地方都市圏の外出率が三大都市圏を上回った。

②は、一日の移動回数を示している。平日は1.96回、休日は1.47回と外出率と同様に過去最低の値を記録した。

平日における20代の移動回数は1.69回、70代の移動回数は1.97回と、2015年調査時に引き続いて70代が20代を上回った。ただし、20代も70代も2015年から2021年にかけては減少している。

2. 外出率や移動回数が減少している要因

③は、平日における就業者の一日の目的別移動回数を示している。三大都市圏は地方都市圏よりも2015年からの就業者の移動回数の減少幅が大きい。特に、通勤や業務といった仕事に関する移動の減少が地方都市圏よりも大きいことが分かる。買い物、食事、娯楽といった私用目的での移動回数は、三大都市圏よりも地方都市圏で減少している。

三大都市圏と地方都市圏の差は、在宅勤務者の割合が影響していると考えられる。在宅勤務者の割合は、三大都市圏の15%に対して、地方都市圏では4%と大きな差がある。

④は、通勤者と在宅勤務者の移動回数を示している。通勤者に比べて在宅勤務者は、通勤の移動がない分、一日の移動回数が少ない。一方で、私用目的での移動回数は在宅勤務者の方がやや多い。

⑤は、就業者と非就業者の外出率を示している。就業者割合はこの10年ほとんど変化がみられず、就業者より非就業者の外出率が小さい傾向が継続している。また、2010年から2021年にかけて就業者、非就業者ともに平日は1割強、休日は2割弱減少している。

3. 都市特性による交通手段の違いについて

⑥⑦は、平日における自動車及び公共交通（鉄道、バス）での一日の移動回数の推移を示している。三大都市圏、地方都市圏ともに自動車での移動回数は減少している。公共交通については、特に三大都市圏で大幅に減少し、三大都市圏、地方都市圏ともに過去最低の値を記録した。

⑧は、移動するときを使う交通手段の割合を示している。平日、休日ともに三大都市圏よりも地方都市圏において自動車の利用割合がおよそ3割高い。三大都市圏、地方都市圏ともに平日よりも休日の方が自動車の利用割合が大きく、公共交通の利用割合は小さい。

※調査対象期間について

本調査は、2021年10月下旬～11月末（新型コロナウイルス感染症のオミクロン株流行前）のある一日の移動について調査したものである。

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数（全国）



※本資料は、2022年11月時点において、調査結果を速報版として公表するものであり、今後も引き続き調査結果のとりまとめを進め、詳細な結果や確定値を改めて公表する予定です。精査を踏まえた確定値と速報値は異なる可能性があります。